

【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol. 185】

ニッポー株式会社（北摂支部）

今回は西日本プラスチック北摂支部会のニッポー株式会社 代表取締役社長 内田 宏彦 様と ME 事業部 I・B 部門 IB 営業次長 山本 公一 様を訪ねました。

本社住所	大阪府大東市氷野 2-3-7
電話	072-870-8866
FAX	072-872-3331
資本金	3 億 3,000 万円
従業員数	1,042 人
創業	昭和 38 年
設備概要	射出成形機、ブロー成形機、シート押出機 真空成形機、圧空成形機、真空圧空成形機、充填機等 合計 386 台



代表取締役社長 内田 宏彦 氏(右)
ME 事業部 営業次長 山本 公一 氏(左)



本社外観

創業のきっかけ・沿革

当社は昭和 38 年、私の父である内田 健彦が石油化学製品の販売を行ったことが始まりです。九州出身の父が東京の大学を卒業後、九州に戻る途中に立ち寄った大阪で恩人と再会したことがきっかけとなり、大阪で銀行に就職、ものづくり企業に触れる機会が多く、自身で「ものづくりをしたい」と思うに至りました。当時事業を興すに当たり、「紙」か「プラスチック」で悩んでいたところ、これからの時代は「プラスチック」だと思い、周囲のアドバイスもあり「プラスチック」を選んだと聞いています。昭和 41 年 3 月に包装用フィルムを扱うニッポー株式会社を設立。ニッポーという名前は、日本一（にっぽんいち）と、「日本の包装会社」から名付けたと聞いています。昭和 42 年に真空成形を行う日本パッケージ株式会社を設立し、自宅の裏手に建てた工場で育児用品のシャンプーハットの開発に参加したのが、ものづくりとしての第一歩でした。その後は、昭和 48 年に真空成形・圧空成形用工場、昭和 60 年にブロー成形工場、昭和 62 年に射出成形工場をそれぞれ新設。射出成形は当社の中では、比較的歴史の浅い分

野です。平成2年に現在の大東市に本社を移転。その際に大阪の各地に点在していた成形工場を本社内に集約、1階から7階までを製造事業、8階を非製造事業としています。各地にあった工場は閉鎖せず倉庫や新商品の開発などに活用しています。現在は大きな製造拠点として、福岡県の九州工場、埼玉県の関東工場と、海外に中国、シンガポールがあります。

父が創業した当社ですが、その後は私の兄が20年ほど代表を務め、2025年6月に私が代表に就任しました。

主な製品・特長

当社の特長の一つは、プラスチックの製造においては、シート押出し、真空・圧空成型、射出成形、ブロー成形とその業域が広いメーカーだという点です。一般的にプラスチック製品を製造されている会社は、一つの成形法に特化していると思います。取引先からこんな商品を作れないか？こんなことが出来ないか？と言われることがあります。当社ではそういった話があった際、「実施していないから」や「出来そうにない」から断るのではなく、出来る方法がないか一度やってみようとして社内でも可能な限り実施出来る方法を探します。先ほど述べた様々な成形法を実施しているのはその為です。通常は、新たな事業を立ち上げた場合、取捨選択を行っていくところですが、当社では立ち上げた事業を磨き、深めることで、より多くのニーズに応えていけるようにしています。現在は4事業部5分野でものづくりを行っています。



本社内の各成形設備 射出成形機(左上)、シート押出成形機(右上)、ブロー成形機(左下)、真空圧空成形機(右下)

また、化粧品製造や医療機器製造などプラスチック製造以外も手掛けているのも当社の特長です。製品へ付加価値を与えるため、できるだけ一貫製造や完成品に近いところまで担えるような体制を構築しています。例えば当社で近年力を入れているコスメティック分野では、当初はパッケージである容器の製造やアッセンブルだけの対応でしたが、その後、容器への充填依頼もあったため、それに対応できる設備を導入し充填も行っています。当社ではそれだけにとどまらず内容物である化粧液などのバルク製造も行っています。このバルクの製造は当社からの提案で始まりました。約50年に亘る受託製造業として培ったノウハウを活かし、「こうすれば取引先に喜ばれる」という視点で、付加価値を提案していくことをさらに進めていきたいと思っています。

創業 60 年を迎え、第二創業期へ

創業 60 年を迎え、今を第二創業期と位置付けています。当社のスローガンに「やる気と執念」があります。これは「何でも出来る、そして走り続ける」という意味が込められています。社内に創業当時の集合写真が残っていますが、全員笑顔で写っています。創業当時は非常に苦しい中だったと思いますが、それでも笑顔で写っているのは、撮影だからではなく、「より良い物を作りたい」という思いからだと思います。第二創業期と位置付けた今、この創業当時の気持ちを改めて思い出し、「お客様



各種成形法で製造された製品

第一」という経営理念にひたむきに向き合いたいと思います。

そのため、今後は投資と見直しを行っていきたいと思います。SDGs への対応、コロナ対策のために後回しとなっていました。設備や人材を含めたものづくりの環境への投資に力を入れていきたいと思います。今年開催された大阪・関西万博への出展も投資の一環と考えています。世界的なイベントに出展することで、従業員の士気も上がり、従業員の積極性など気づかされる点も非常に多くありました。

また、何でも実施していくのが当社の強みですが、実施していることの見直しも行い、さらなる高みに向かうべく経営基盤の強化に繋がりたいと考えています。

モノづくり環境への投資と経営基盤の強化を図ることで、年商 300 億円を目指したいと考えています。

※ 会社を訪問して

会社内で勉強会や事業部門を越えた勉強会を実施しているとお聞きしました。入社して配属が決定すると別事業へ転属することが少なく、どうしても縦の繋がりになってしまうということで、横の繋がりを深められる各種勉強会を実施しているとのこと。また、近年の新入社員は入社後全事業部門を転属し、会社のことを学ぶとお聞きしました。横の繋がりによる情報交換や自社のことを学ぶことで、自社で出来ることを改めて確認し、取引先のニーズに応えられる体制にしていると伺いました。

このような小さな取り組みが、年商 300 億円という大きな目標に向かって、当社のロゴマークのカタツムリのように一步一步着実に進まれていると感じました。

◎ありがとうございました
取材：事務局 大野・吉田

※本記事記載の情報については、2025 年 11 月 28 日現在のものとなります。

**掲載希望の方は
事務局(06-6538-6100)までご連絡ください。**